

# BIGRO

## ビグロ

ジオン公国軍が一年戦争に投入したMAのうち、最初期に実現された機体。既存の宇宙ボッドを強化・発展させたもので、MSのような汎用性に欠けるものの2基の熱核ロケット・エンジンが生み出す大推力を活かした一撃離脱戦法は他の追随を許さず、少數ながらも量産され、実戦投入されたとの経緯がある。一年戦争最終局面のア・パオア・クー攻防戦でも本機小隊が配備されている。



高	23.6m
長	45.5m
メカニズム	125.5t
機動用エンジン	229.8t
機動用モーター	超硬スチール合金
ミサイルランチャー	17,800kW
ラムファン	136,100kg
マッサー有効半径	111,100m
装	メガ粒子砲×1
	4連装ミサイル・ランチャーニット
	大型クロー・アーム×2
	トクワン・他

### GUNDAM MS Bible 23

#### CONTENTS

■ 戦場レポート 動線上での激戦	01	■ MS概記 ビグロと系列機 戦闘の記録	18
■ MS機体解説 機体解説 武装解説 ザクレロ、ヴァル・ヴァロ、グラブロ	05 07 08	■ MS進化論 ビグロ 開発系譜図	20
■ 関連MSラインナップ ビグロと関連機体	14	■ メガニック・ジャーナル メガ粒子砲 一年戦争期の世界(宇宙)	24 30
■ MSバイロット トクワンと周辺人物	16	■ ガンプラ ジェネレーション 宇宙での戦闘に特化した機体を再現!	34







「機動戦士ガンダム」第31話「ザンジバル、追撃!」より

# 軌道上で激戦



## 運用MS ジオン公国軍

本来はビグロの運用試験のために組成された部隊。しかしシャアに撃破されたことで本来の任務は一尚難上げとなり、ホワイトベースの追撃を開始。ビグロもガンダムとの実戦に投入されることになった。



MS-09R  
RICK-DOM  
リックドム



VS

MA-05 BIGRO  
ビグロ

圧倒的な機動性を誇るMA。そのためパイロットにも耐G能力が求められ、通常の人類では操作能力を十分に発揮させられない。

サンジバル 褐櫻號過河船



地球連邦軍基地ジャブローでの修理と補給を終えたホワイトベースが、再び、宇宙へ上ることになった。情報を察知したシャア・アズナブルは行動を開始。MA試験部隊が保有するザンジバル級機動巡洋艦を接収し、ホワイトベースの追撃にかかったのである。月に向かうかのようなホワイトベースの軌道を見たシャアは相手が圓であり、連邦軍本隊は別行動を取るだろうことに気付いた。

それでもシャアは追撃の手を緩めることなく、トクワンに出撃を指示。

MAビグロとリック・ドム2機で構成された攻撃部隊がホワイトベースを急襲したのだった。

## 戦闘地域

ビグロからの警報を受けた時、ホワイトベースは地球衛星軌道上を航行していた。連邦軍宇宙軍地帯ナナーとは相反の方向へ向かう軌道は特別な意味があるかに見えるが、実はこの軌道はフェイクだった。ジャブローで隕落された連邦軍艦隊(ティアムン艦隊)はルナツー宙域に集結し、ジョン公爵軍宇宙要塞ソロモンを爆破する手はずになっていた。そのためホワイトベースには本筋の進路を悟らせないように指揮官が謀せられ、最後で衛星軌道を航行していたのだ。



ビグロがガンダムと交戦する一方、ザンジバル級機動巡洋艦はホワイトベースに直撃。それ違いでの爆撃を仕掛けた。



ホワイトベースからの一撃が機関部付近を貫通したことでザンジバルは爆撃。しかしシャアは油断を許さなかった。



■地球衛星軌道上に位置したホワイトベース

## 運用MS 地球連邦軍／ホワイトベース隊

サイドFからジャブローまでの前哨を成し遂げ、名のある公爵軍部隊との戦闘に勝ち抜いたことから「ニュータイプ部隊」と自されるようになった。それだけに敵味方の注目の的になり、一部の連邦高官から厄介者扱いされている。



RX-78-2 GUNDAM  
ガンダム

で多くのMSを相手にしてきたが、非常にビグロの強撃性に苦労されてしまう。



RX-75  
GUNCANNON  
ガントン



G-BULL EASY  
Gブル・イージー



WHITE BASE  
ホワイトベース



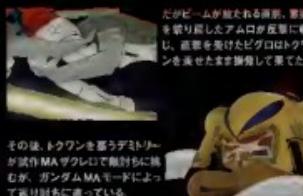
G-SKY  
Gスカイ

## HISTORY TIMELINE — 時流の歴史 —

### 超機動戦闘の果てに

MS以上のサイズを誇るビグロは強力な推進機関を搭載しており、ガンダムに一撃離脱戦法で挑んだ。すると強度目かの攻撃でガンダムが機体に引っ掛かるというアクシデントが発生。急激なGの変化にガンダムのパイロット(アムロ・レイ)は氣を失い、トクワンはとどめを刺そうとする。

アムロが気を失っている間に笑いでガンダムをトクワンで押さえつけたビグロは、勝負メガ被子箱による忠誠訓練からの宿命を仕掛けた。



だがビームが放たれる直前、意図を察知したアムロが反撃に転じ、直撃を受けたビグロはトクワンを乗せたまま爆発してしまった。

その後、トクワンを喜ぶデミトリーリ試作MAザクロで敵討ちに挑むが、ガンダム MAモードによつて返り討ちに遭っている。

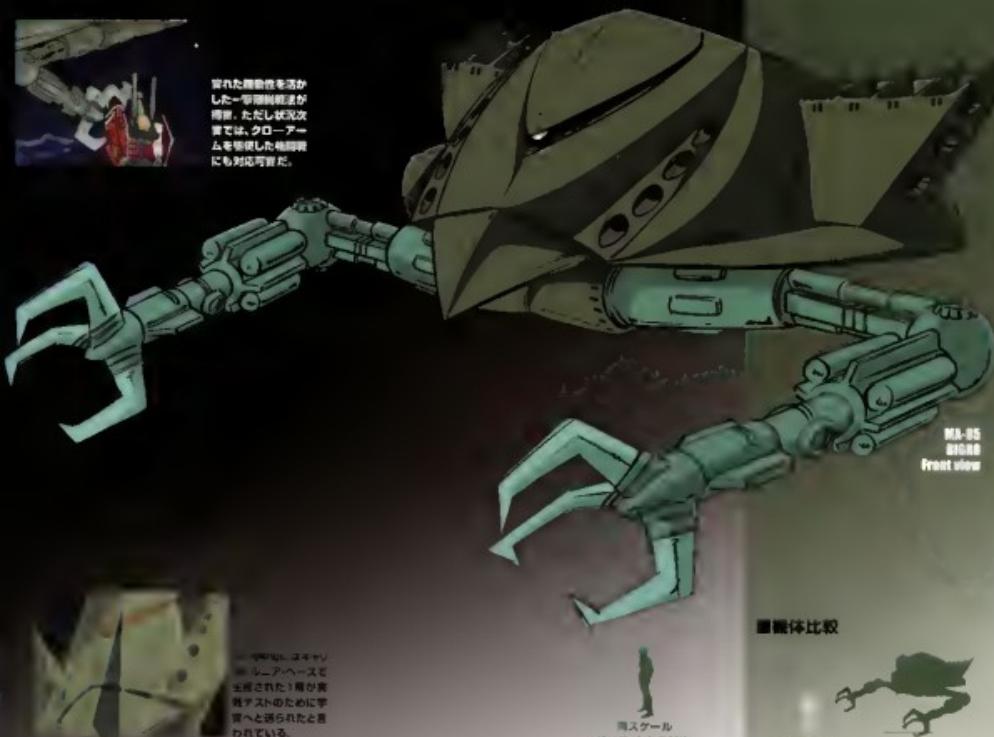
# MS 機体解析



MA-05 BIGRO  
ビグロ



冒れた機動性を活かした一撃撃滅戦法が得意。ただし状況次第では、クローラーも駆使した地雷戦にも対応可能だ。



MA-05  
BIGRO  
Front view

## ■機体比較



RX-78-2  
GUNDAM  
18.0m

MA-05  
BIGRO  
23.6m

する高機動戦闘能力を追求し、  
装備された唯一のジオン公国軍MA

MA-05 ビグロは一年戦争期に唯一実戦配備されたジオン公国軍のモビルアーマー（MA）である。その原型となったのは、U.C.0071に始まった次期主力兵器開発でMIP社が提案したMIP-X1で、選考ではのちにMSへと発展するZEONIC社のZI-XA3に敗れている。だが、従来の軌道戦闘機を凌駕する加速性能が高く評価され、新たな機動兵器の顔となつた。こうした経緯で誕生した機体がビグロで

あり、宇宙空間における高速戦闘に特化した性能を特徴としている。キャリオルニア・ベースで開発された本機は、最初期のMAでありながら良好なバランスを有し、初期量産型として12機ないしは14機が生産されたと言われている。また、出力系などに改良を加えた後期型も存在したとされ、一年戦争末期のアバオア・クー攻防戦には3個小隊ほどの戦力が投入されたとする記録が残っている。

23.6mという数値は全長で、全高は45.5mにも及ぶ。MBを上回る機体サイズは、要塞兵器を満たすための大空化を意味しないMAの設計思想を如何に物語っていたと言える。一方で、その巨体に見合う性能を有していた。



アバオア・クー攻防戦の際に、要塞砲塔に衝突されたビグロの頭部。頭部中の地雷装置が爆発したとも言われる

# MS 機体解析 機体解説

## AMBACシステムの導入を最大の特徴とする 新機軸の機動兵器としてのビグロの設計

ビグロの設計は、優れた加速性能に反して運動性に劣るMIP-X1の欠点をAMBACシステムで補うという発想を出发点としている。MSの開発過程で考案されたAMBACシステムは一対の動作股でも十分な効果を得られることがから、非人型の機動兵器であるMAにも導入されたのである。本機は切り詰めたような今後の中の短い機体形状を採用し、一対のマニピュレーターによるAMBACと各部の推進器を併用することで、180度姿勢変換を1.3秒で行うほど高い運動性を発揮。空間戦闘においてMSを大幅に上回ったのである。

用いた機動性を活かしてガンドムを操縦するビグロ。これまで多くの公私共MSを駆使したガンドムだが、宇宙空間での運動性能に神化したビグロには苦難を経た。

### ■モノアイ

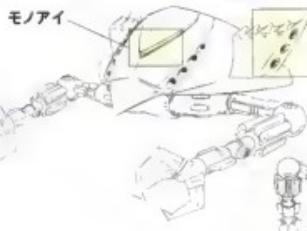
ビグロの走査端末には、既存のジオング公国軍 MSで性能が実証されたモノアイが採用されている。本機が公国軍の機動兵器である以上、独自の先端技術によるセンサーシステムが導入されたのは当然である。モノアイの採用によって、本機はモノフューキー粒子砲布下での高機動戦闘に対応した視認・駆動能力を確保していた。

モノアイレールは機体上端を左右に走るかたちで設けられ、前方約180度をカバーする機能となっている。



### 側部サブ・スラスター

左図がモノアイと機體サブ・スラスター、右図がメイン・スラスターと下部サブ・スラスターの位置を示している。



### 下部サブ・スラスター

### ■スラスター

主推進機関として機体後部に2基の熱核ロケットエンジンを備え、その下部には2基と機体左右に3基ずつのサブ・スラスターを搭載している。各スラスターを合わせた総推力は13万kgを越え、MS-06FザクIIの3倍以上にも達する。その加速度は通常のMSの比ではなく、AMBACを組み合わせた本機の高速戦闘能力は量産に足ると評価された。



2基のメイン・スラスターの推力は非常に高く、その自体を簡単に駆動させる推進力を確保した。

### ■コクピット

ビグロのコクピット・レイアウトは定かではないが、内部構造は第二期生産型以前の公国軍MSと同じ仕様となっていた。本機の生産はU.C.0079.04に始まっていたことから、2月に着手された統合警備計画の影響を受けていなかったのだろ。ただし、圧的な加速度性能が生じさせたGに対応するため、コクピットには耐G性能が与えられていたと推測される。



ビグロのコクピット・内装の様子。座席背の音響装置は初期のMSのものが流用されたと見られる。



重力の影響を受けやすい泡船のような宇宙でも自在な運動が可能なほどの圧倒的な推進力を有する。



高運動性中のGは強烈で、本機と交戦したアムロ・レイは確実に感覚した際に失神している。

## MSを凌駕するビーム兵器の攻撃力とそれを生かした一撃離脱主体の戦闘スタイル

MAの開発においては、MS以上の攻撃力を付与するためにビーム兵器の装備が模索された。大型の制約を取り除くことで、ビーム兵器を駆動させる大型ジェネレーターの搭載がある程度は容易となった点も、そのコンセプトを後押していたと考えられる。結果、ビグロには大型のメガ粒子砲が装備され、機動性を生かした一撃離脱戦法や単独での対艦攻撃といった運用を可能とする攻撃力を獲得していた。ただし、高速戦闘では自機の照準も定めにくいという難点があったといふ。

### ■メガ粒子砲

主兵装となるメガ粒子砲は機首に配され、クチバシのようなカバーで覆われた構造となっている。このメガ粒子砲は偏航型だつて言わ。ある程度の射角の修正が可能だと推察される。また、本兵器がMS用の移動徹底に転用されて「スキウレ」が開発されることになった。



上は機体のカバーを開いた状態。中央の円形部分がメガ粒子砲の砲口で、砲眼は完全に内蔵されている。



発射したメガ粒子砲の砲口部。17,800 kWという大出力のジェネレーターによって巨能を実現している。



メガ粒子砲を発射するビグロ。ビームの収束率は低かったとされるが、対MS戦闘に十分な威力を発揮していた。

### ■大型クロ

AMAC族として機体前部に付けられた2基のマニピュレーターの先端は、3本爪のクロになっている。これは打撃戦を想定した兵器で、ル・チタニウム合金の装甲を貫くほどの強度を有していた。また、このクロにMS-14 ゲルググのビーム・ライフルを持たせることが可能だったとする説もあるが、運用例は確認されていない。



クロは四肢に折れ曲がった形状が特徴で、駆動機構を備える。「クロアーム」と呼ばれる機能もある。

### ■ミサイル・ランチャー

機体上部の左右にはミサイル・ランチャーを4基ずつ内蔵している。ミサイルの装弾数は不明だが、実戦においては複数回の発射が確認されている。単純な打撃力としてだけでなく、ミサイルの弾幕を張って敵機の行動路を阻害し、高速戦闘を有利に展開するといった戦法にも用いられた。ただし繩緒が固定された兵装のため、機体の進行方向にしきか射界を確保できなかった。



ミサイルを発射するビグロ。右側のミサイルランチャーは頭部発射が可能で、肩部に固定された兵装だったと言える。



MA-05  
BIGRO  
Rear view

# MS 機体解析



MA-04X ZAKRELLO  
ザクレロ



MA-04X  
ZAKRELLO  
Front view

## SPEC

重量: 不明  
速度: 不明  
本体重量: 不明  
全機重量: 不明  
ジオネレーター出力: 不明  
スラスター能力: 不明  
武装: ビームビーム砲、4連装ミサイル  
ランチャード2

ザクレロの実験登場については複数あり、  
デミトリーによる實  
験出撃ウア・バオ・  
クー試験駆けへの侵入  
などと挙げられる。

ザクレロのテスト・バ  
イロットはデモリリー  
が務めた。ビグロも  
乗ったトクワンの飛  
下で、彼を救ってい  
たという。

## MA 開発の試行錯誤のなかで生み出され、 失敗作の烙印を押された公国軍の試作機

MA-04X ザクレロはビグロに先行して開発が進められた試作 MA だが、成功例とも言えるビグロとは対照的に、満足な結果が得られなかつた機体だつた。ビグロ同様、宇宙空間における高機動性とビーム兵器の搭載に主眼を置いて設計された本機だつたが、度重なる設計変更や開発メーカーの不手際によって計画は人幅に遅延。先行機に遅れて完成した機体は油圧性能こそ優れていたものの、良好

な運動性を得られなかつた。また、搭載されたビーム兵器(弾数ビーム砲)の有効射程も短く、対 MS の高機動戦闘には適さない性能となつてしまふ。その結果、本機は小型宇宙船レベルの兵器と評価され、実戦段階で計画が破棄されることとなつた。一般的には前述の型式番号で知られるが、公国軍が完成機の性能を疑問視したことから型式番号自体が与えられなかつたとする説もある。

## 機体比較



RX-78-2  
GUNDAM  
18.0m

MA-04X  
ZAKRELLO  
Unknown

ザクレロは複数テストの前に破棄された機  
体だったためか、スペックに倣する正確な數  
値は伝わっていない。荷物を装備形状も特徴  
のひとつであり、当時の MA の間に遅れず大  
型だったと考えられる(全長 25m とも)。

# MS 機体解析 機体解説 武装解説

## 要求性能を満たせなかった機体構造と ビーム兵器の搭載を中心とした兵装の構成

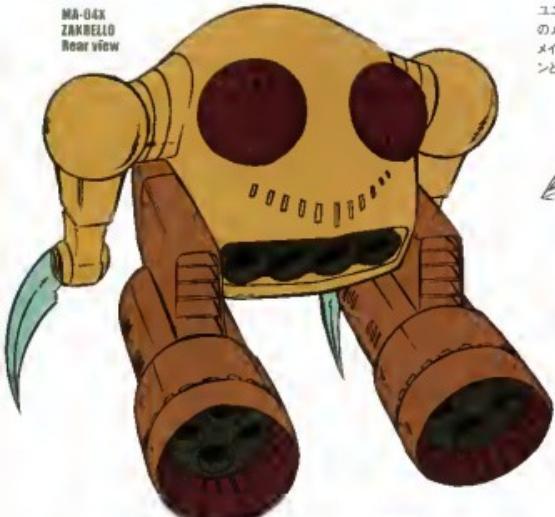
ザクロの開発はMIP社によってキャリフォルニア・ベースで行われ、AMBAC社が開発した人型機動兵器というビグロと同じコンセプトに基づいて設計された。だが、計算通りの性能を獲得できず、失敗作の烙印を押される結果となつた。一説には、制式採用を逃したのに各種兵器のテストベースとなり、キャリフォルニアベース第3試験センターで拡散ビーム砲の試射が実行されたという。その後、フロリダのケープカナベラル宇宙基地からジョン本園に送られる途中、撃断出撃で失われたとする。



トクンの仇討ちのために開発し、ハヤト・コバヤシのRX-75 ガンタンクと交戦したとも伝えられる。



無照出撃したとする説では、アムロ・レイの ガンダムMAモードの ビームサーベルによつて撃破されたといふ。

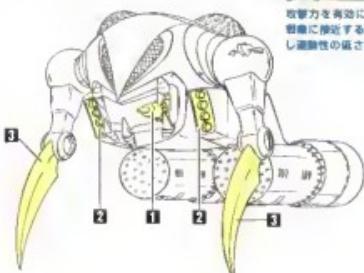


### ■武装

ザクロは一撃爆破戦法を想定して設計され、ビーム兵器の搭載が試みられた。たが、開発当初は板金型メカ粒子砲の小型化が困難で、本機には板金型が採用されている。その射程の短さが仇となり、実用化は見送られたのだった。

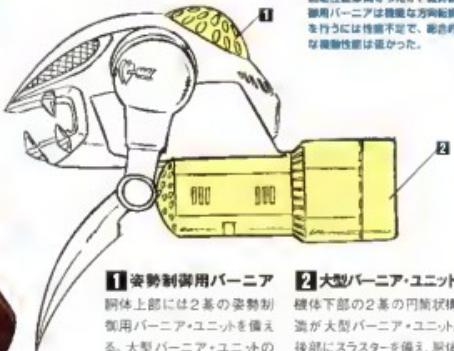


攻撃力を有効に発揮するためには  
装甲を削除する必要があった。しか  
し剛性の低さがその根となつた。



### ■機体構造

ザクロは半球に近い形状の胴体に大型バーニア・ユニットと腕部を設けた機体構造を特徴としている。腕部後部には4基のメイン・スラスターを有するが、一方にはメイン・エンジンとバーニアは推力不足が指摘されていたといふ。



#### ① 姿勢制御用バーニア

胴体上部には2基の姿勢制御用バーニア・ユニットを備える。大型バーニア・ユニットの前部には同型の機構を有するが、十分な性能ではなかった。

#### ② 大型バーニア・ユニット

胴体下部の2基の円筒状構造が大型バーニア・ユニット。後部にスラスターを備え、胴体部メイン・スラスターとともに推進力を担っている。

### ■拡散ビーム砲

胴体前面中央に備える拡散ビーム砲は、レンジが広く命中率に優れていた。また、パワーコンテンサーの性能が良好で、長時間の連射が可能といっていた。なお、本機の技術はスキウレに流用されたと言われる。



#### ③ ミサイル・ランチャー

左右の大型バーニア・ユニットの連結部前面には、4連装のミサイル・ランチャーを内蔵している。拡散ビーム砲が主兵装に位置づけられることから、補助兵装として運用されたと考えられる。



#### ④ ヒート・ナタ

左右腕部の前腕に相当する部位にはヒート・ナタが装備されている。これはヒート・ホークの原理を応用した近接戦闘用兵装で、目標との相対速度を利用して威力を高めることができたといふ。

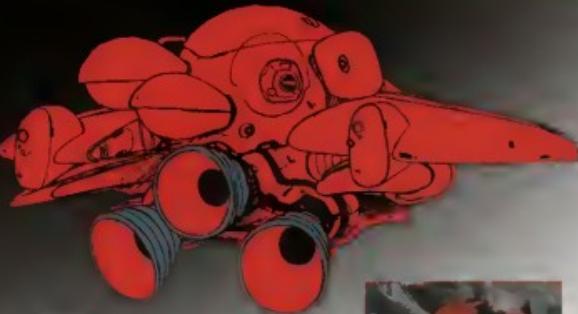


# MS 機体解析



MA-06 VAL-WALO  
ヴァル・ヴァロ

國人-06  
省級-網點圖  
行之有據



DEA-96  
MAIL-MAIL  
Dear wife



ビーム兵器による火力と高い爆発性という公演萬MAの本コンセプトを高めた機体で、戻り高を有していた。



かつて公開画の一員として描いた銀鏡のパイロット、ケリー・レスナーによって再録され、フルバーニアンとの私説を満じている。

SPEC

**主翼:** 68.0m  
**全高:** 12.5m  
**全幅:** 46.0m  
**本体重量:** 254.1t  
**全备重量:** 379.0t  
**ジェネレーター出力:** 26,000kW  
**スラスター推力:** 72,000kg  
**脚部材質:** 不明  
**翼面:** 大型バタフライ形モノコック、ヨサイルバー  
ム・ボンズ2.150mmペルル-3  
リ-ガーリー

多様な機能を採り入れた設計が仇となり、雌伏の時を経て戦場に躍り出た公国軍MA

一年戦争末期に開発が進められたのが、目の日を見ぬまま終戦を迎えたジオン公国軍MA——それがMA-06「ガル・ヴァロ」である。ビグロに続く型式番号をうえられ、同機を発展させた設計が採られた本機は、さざまな機能を盛り込んだ意欲的な機体でもあった。MAX-03アッザムのアッザム・リーダーを発展させたプラズマ・リーダーなど、既存のMAのノウハウを探り入れた兵装や機体構造を特徴と

し、高い戦闘力と多機能性を誇っていた。だが、多彩な兵装が速にMAとしての一性質を損ない、即発射試験は試験段階で破壊された。それでも終戦時にフォン・ブランハへと移送された本機は、旧公国軍人のケリィ・レズナーによって隠匿されて改修が行われた。その後、U.C.0083に勃発したダーラーズ新争において、RX-78GP01-Fb ガンダム試作1号機フルバーニアンと交戦している。

機體比較



RX-78GP01-Fb MA-06  
 GUNDAM VAL-WALO  
 GP01Fb 22.5m  
 185mm  
 全高こそビグロよりも低いが全長は150mm、全体としての機体サイズは大きくなっている。大型化を隠す間にさまざまな面で隠されたMAの隠し方とも言えよう。デラーズ船事務にも異形を残していた。

## ビグロの設計を受け継いだ機体構造と矛盾するコンセプトを内包した兵装群

ヴァル・ヴァロの開発においては、グラナダ工廠で生産されたビグロのうち2機がYMA-06の型式番号を割り振られたテスト機とされ、本機の原型になったとも言われている。その真偽は定かでないが、本機がビグロの設計を踏襲していたのは確かで、機体後部に配された3基の大型スラスターと各部の姿勢制御用バーニアによって高い機動性を獲得していた。その性能は月面のような低重力環境においても上位に發揮され、デラーズ紛争における実戦でも機動性に優れるフルバーニアンを翻弄している。

### ■機体構造

ビグロに近い機体構造にクラフロのような曲面形状を採り入れたフォルムが特徴。装甲は極めて強度が高い耐ビームコーディングの装甲は遮断層からのビーム・ライフルの直撃に耐えるほどの性能を有していた。



表面装甲用  
バーニアによつて高い  
衝撃力を吸収してゐる。



メイン・カメラにはモノアイを採用し、頭部上面装甲の分割線がモノアイレールとなっている。

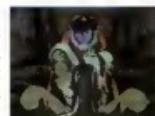


機体下部に3重の表面装甲を備え、降着状態では上のようすに前傾姿勢となる。



### ■コクピット

ヴァル・ヴァロのコクピット構造は第二次生産型のそれに近いが、内部スペースはより広く確保されている。また、一年戦争で左腕を失ったケリィは転落した本機を修復する際に、片腕でも扱えるよう複数系統を設置している。



乗組特性を生かしてフルバーニアンを圧倒するが、最後はビーム・サーベルで動力源を暴かれで暴走された。



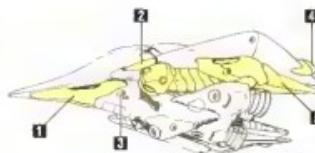
左はコクピット、ハッチの断面図。上面装甲が持ち上がり、内蔵ハッチが露出する。



片側での操作を想定したワン・コントロール・スタイル。さまざまな機能を有する。



プラズマ・リーダーは地面に固定する必要があり、拘束的な空間戦闘では使用できないう�欠があった。



### ■武装

#### 1 大型メガ粒子砲

多様な兵装を装備する点が、ヴァル・ヴァロ最大の特徴である。ビグロのコンセプトを受け継いた大出力のビーム兵器に加え、プラズマ・リーダーやMAM-07 グラブも参考にした格闘用クロノなど、兵装の充実は特筆に値する。しかし、高機動戦闘用のビーム兵器と格闘用装備を併設するなど、それぞの兵装のコンセプトが矛盾していたことも事実で、そのままさがなさが本機の評価を下げた。



機首下部には大型メガ粒子砲を備える。通常は収納されており、発射時にカバーが左右に展開して砲身が露出する。ルナ・チタニウム合金の装甲を至近弾で溶解させるなどの威力を有する。



大型メガ粒子砲はヴァル・ヴァロの兵装の中でも最大の威力を誇り、有効距離は誰かと見られる。

#### 2 対空ビーム・ガン

機体前部の左右に搭載された小型のメガ粒子砲。発射時にカバーが機内に引き込まれ、砲身が出現。



#### 3 110mmバルカン砲

大型メガ粒子砲の下部には、110mm口径のバルカン砲が4基（左右に2基ずつ）装備されている。



#### 4 ミサイル・ホッド

後部左右に2連装のミサイル・ホッドを1基ずつ備える。フルバーニアンとの戦闘では用いられなかった。



#### 5 格闘用クロノ

伸縮式の腕部先端にハサミ状の大型クロノを有する。非使用時には機体に密着させるように収納される。



#### 6 プラズマ・リーダー

広域高周波加熱システムとも呼ばれ、プラズマ結界を展開して範囲内の対象にダメージを与える。



# MS 機体解析



MAM-07 GRUBRO  
グラブロ



## SPEC

本體: 40.2m
全高: 26.1m
本体重量: 324t
全重量: 793.7t
ジェネレーター出力: 11,600kW
スラスター推力: 不明
装甲材質: 不明
武器: クローキー×2, 7連装水中ミサイルランチャー×2, ブーメラン・ミサイル×2

## 制海権を確保するために開発された 水中戦闘に特化したジオン公国軍の大型試作MA

地球降下作戦に統合して制海権の確保を図った公国軍は、海洋戦力となる水陸両用MSに並行して水中戦用MAの開発を進めた。その成果として誕生した機体が、MAM-07 グラブロである。汎用性の高い水中用MAは開発コストがかかることから、運用を堅定した数種種が同時に開発され、最初に完成したのが本機だったとされる。サンディエゴの潜水艦ドック（キャリッフィルニア・ベース）の艦載用ド

ライドックとも言われる）において3機の試作機が生産された本機は、メキシコ湾での機能テストを経て実戦に参加。南米大陸からの兵站を担う海上交通線を分断することで、欧州方面の連邦軍の戦力を削ぐという運用が想定された。また、そのうちの1機（プロトタイプとも言われる）はシャア・アズナブル率いるマッド・アングラー隊に配備され、ホワイトベースとの戦闘に投入されている。

## 機体比較



RX-78-2  
GUNDAM  
18.0m

MAM-07  
GRUBRO  
26.1m

ビグロをより水中抵抗の少ない形状に変更し、本機のフォルムが神似で、機体サイズもビグロに近い。水中戦に特化した機動兵器としては当時最大級の機体で、既存の海軍戦力を凌駕する性能を実現した。

# MS 機体解析 機体解説 武装解説

## ビグロをベースに水中戦特化の設計を施したグラプロの機体構造と各種兵装

グラプロはMIP社が開発を担当し、先行するビグロを設計のベースとしている。1ヶ月半という短期間で試作機の完成に漕ぎつけた。その設計は水中戦に特化しており、水陸両用MSを凌駕する火力と運動性能を発揮した。一説には、本機をベースとした水中用ビット搭載機(MAM-07-X3 グラプロ試作水中ビット搭載型)などの開発計画も存在したと言われている。なお、ホワイティベース隊との交戦で撃破された機体を除く2機の試作機は、終戦時にマダガスカル沖で連邦軍に拿捕されたという。



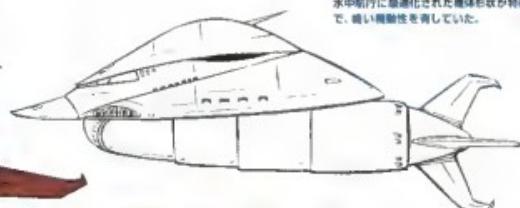
マッド・アングラー専用機種は、MS-M-07 グラコクミ装を操作させ、大西洋でホワイトヘースを攻撃した。



一説にはRX-7B-2 ガンダムとの中間に及び、これを圧倒するもビーム・サベルを發げて撃墜されたといふ。



MAM-07  
GRUBRO  
Rear view



水中航行に最適化された機体形状か特徴で、高い航続性を有していた。

### ■機体構造

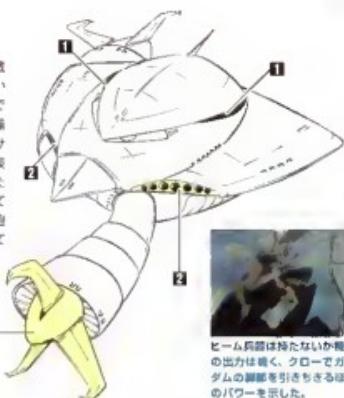
ビグロの設計を参考にしたグラプロたが、水中戦用MAとしての独自の構造が随所に見られる。そのひとつである推進機関は、機体後部にも基の熱核水流ジェット・エンジンを配し、単独で地球を一周するほどの航続距離を有していたとも言われる。また、モノアイに加えて強力なソナーを備え、漁網の密着に対応した。



熱核水流ジェットの威力は確実で、ズコックミ装を牽引して飛行中のホワイトベースに近づく航行性能を示す。

### ■武装

グラプロは水中戦に用途を限定している。そのため、水中で成するビーム兵器の搭載を見送り、ミサイルを中心とした武装を選択している。ただし、重量計画においては機首にミガ粒子砲の後備が予定されていたという。



### ① ブーメラン・ミサイル

機体上面の左右に内蔵された対空・対艦ミサイルで、安定翼の形状からこの名称で呼ばれた。主に水上への攻撃に用いられ、目標に突き刺さってから爆発する徹甲弾に近い機能も有していたと見られる。



### ② 7連装水中ミサイル・ランチャー

機体前部の左右に計2基が搭載された、水中発射が可能なミサイル・ランチャー。魚雷発射筒とする説や、6連装ないしは8連装とする資料も存在する。封釋攻撃を想定した本機の主兵装だったと考えられる。



### ③ クロー

左右の腕部先端に3本爪の大型クローを備える。クローは可動式で、目標を掴むような動作も可能。水中から艦船を攻撃するための兵装と言われ、非使用時には整流効果を高めるために腕部が後方に収納される。



# 関連MS ラインナップ

MA-05  
BIGRO ビグロ



地球連邦の  
制海権を  
分断する  
水中用MA



制式採用を  
見送られた  
異形の  
宇宙用MA



艦隊戦での  
急攻を  
託された  
強攻型MA

## MAM-07 グラプロ

ジョン公爵軍のMA（モビルアーマー）開拓試験は夜戦が進行して進行していたが、なかでも早朝に実戦投入されたのがグラプロである。同じMP社製の宇宙用MAビグロを通常ベースとしたことから、開発着手から約一ヶ月半という短時間で完成。開拓された新惑星水星ジット・エンジンは極めて高効率で、同時に水槽用MSよりも火力・運動性能で優れる。さらに航続距離は単純で地球一周を可能にするなどだ。



機体側面にフレキシブル・アームと  
大型ドロードを装備。  
慣性となる重さの  
貢献を最大限に發揮する。

## MA-04X ザクロ

グラプロやビグロに先駆けて開拓されたものの、堪能なる設計変更や開発メーカーの不手際によって完成が大幅に遅れたとされる。公爵軍宇宙用MA。機動タイプのメイン・カメラや「口」を原点としたメガ粒子砲。鋼型のミニビュレーター（ヒート・ナダ）など、他の機体とは一線を画するデザインが特徴。開拓用の機械の表れと思われるが制式配備には至らず、宇宙空間での機動試験を前に計画は放棄されている。



主兵装のメガ粒子砲はワーコンデンサーの導入によって威力と長射程を実現した。ただし射程が長いといいう欠点がある。

## MA-05R ピグ・ルフ

ビグロをベースに改修された封鎖専仕様の強攻型。ベース機の圧倒的性能を活かした一撃離脱能力を基本としており、機体上部に全長100mほどの大型ミサイル装備用パイロンを追加。これによる機動力低下を補うべく、機体上部に増加ブースターを2基設置している。結果、艦隊への打撃力は格段に向上したが、排障するには強い腕のある機体となってしまい、パイロットにも相応の技量が求められるところである。



ベース機のビグロも強襲性能や爆破能力は抜群だが、本機はそれを上回る機動力を有しており、結果的にパイロットも直面する機体となつた。



フレキシブル・アームの代わりに開拓用附帯の水中用ビットを搭載した改修版。グラプロ試作水中ビット実験も試作された。



サイコミュと制御式メガ粒子砲を搭載し、ニュータイプによる運用を前提としたMA ブラコレ。コクピットはタンデム式を採用している。



ビグロ同様、機体側面にミサイル発射管を4箇所ずつ装備している。これは封鎖攻撃用ではなく、自衛用武器と思われる。

第03技術試験機  
馬鹿の技術士官リ  
グラー・ダイガは暴  
し、ア・バオ・クー  
改修に参画。友達  
の試作機を操作す  
るため、最後まで  
言い合った。



元公団軍手取修理庫  
のクリエイ・レスナー  
が監修。本機を土手  
にデラース・ブリー  
トに搭載するつもり  
だったが、徹底して理  
論に拘泥された。



「一年戦争開幕の  
ニュータイプと変わ  
れたアムロレイが研  
究することで、機動  
性能も多くの機  
能を記録。ガンダム  
の名を知らしめた。」



友軍機の  
母機として  
運用された  
大型機



### ■MA-05Ad ビグ・ラング

「機動戦士用試作機」のコンセプトで開発されたビグ・ラ  
ングは自ら参戦するよりも、前線における友軍MSやモ  
ビルボンドの構造と応急修理役としての機能を与えられ  
た大型MAである。ビグロを管制ユニットとして使用し、  
その下部に接続された大型コントナ(Adユニット)が監  
視と修理を担当する。その一点を評価する限りは優れ  
ているもののビグロの利点だった機動性は大きく削減  
されており、開発に成功した機体とは言ひ難い。

ビーム銃乱射器  
射撃を実現。船底  
からのビームの  
威力にも耐えられ  
る。ただし機動性  
が弱いので、物理  
的な距離は苦手と  
する。



ア・バオ・クー改修部  
でビグラングの神威封  
禁となつたモビルボン  
オッジ。決戦兵器として  
登場された。

一年戦争後、  
秘かに  
改修された  
試作MA



### ■MA-06 ヴァル・ヴァロ

一年戦争末期の公団軍が開発したMAで、既存MAの  
長所を積極的にビグロに取り入れた異形型とされる。そ  
のためMAの開発理念(汎用性ではなく、特定条件下で  
圧倒的能力を発揮する機動兵器)を十全に発揮しており、  
機動性と火力を高い次元で両立させることに成功。ビグ  
ロ以上の加速性能を活かした高機動戦闘向きの機体と  
なった。ただし一年戦争では実戦投入されず、試作機3  
機の製造に留まつたとされる。



U.C.0083、月面  
都市ファン・ブラック  
を襲撃したヴァ  
ル・ヴァロは、ガン  
ダム試作1号機フ  
ルバーニアンと交  
戦、擊墜された。



機体後部に配された3脚の拘束形ユニットは機  
界戦士プラズマ・リーダーの発生源。轟き掃除  
を狂わせ、倒錯不屈に煽らせる特殊兵器だ。

戦局打開に  
大きく  
貢献した  
白いMS



### ■RX-78-2 ガンダム

公団軍の大型兵器に対抗すべく、地球連邦軍が実施し  
たV作戦によって開発された機体。コストを重視した  
設計と性能が盛り込まれた結果、わずか3ヶ月半の運  
用期間にもかからず、戦略的な成果をあげた。これに  
より公団軍だけでなく連邦軍内部からも艦艇の目で見  
られるようになった。さらに一年戦争後は本機の設計を  
ベースとした派生機が誕生。ガンダムタイプの始祖とし  
てMS開発史上に記録されている。



グラブルとの空中  
戦では片足を膝  
絆させられて苦  
労に陥ったが、コ  
クピットにビーム  
サーベルを突っ  
立て、銃手を握つ  
ている。



ザクレロとの戦闘ではGバーツ(B)を装備した「ガンダムMA  
モード」で完遂。メインエンジンを燃焼している。

# MSパイロット——トクワン／デミトリー——

“赤い彗星”の下でホワイトベースと対した  
ジオン公国軍のモビルアーマー乗りたち

トクワンとデミトリーは、ジオン公国軍の初期MA運用に携わったとされるパイロットたちである。一年戦争末期にシャア・アズナブルが指揮して宇宙に上がったサンジバル機動戦艦は、ビグロの実戦テストを半導していたとされる。そのパイロットとしてサンジバルに乗艦していたのがトクワンであり、シャアの補修も務めた人物だった。一方のデミトリーはトクワンの部下で、試作MAであるザクレロのテスト・パイロットだったといふ。一説に、ジャブローを発ったホワイトベースに対するシャアが追撃砲を展開した際、ふた切れそれがMAを駆って機闘に参加したとも言われている。ただし、一般的にはホワイトベースとの戦闘で彼らがパイロットとして出撃した記録はないとする説のほうが有力である。



トクワンはパイロットでありながら、サンジバルの元々の細胞としてシャアを創造した。ほかの乗組員らの人間も早く、デミトリーはトクワンを守っていた者ひとりだった。



トクワン

## トクワン Tokwan / デミトリー Dimitri

■DATA 年齢：不明 所属：ジオン公国軍 隶属：少尉 能力：MA操縦

■DATA 年齢：不明 所属：ジオン公国軍 隶属：曹長 能力：MA操縦



トクワンはビグロの脳裏に宿える複雑なパイロットで、実戦でも高難度戦闘でガンダムを倒すほどの戦士だ。



デミトリーは上官であるトクワンの忠い部下を演じて、ザクレロで無事出撃したといわれている。



デミトリー

出っ張りが特徴のデミトリー。  
着用したノーマルスuits  
は通常のものだった。

### ▶異説におけるふたりの戦い

一年戦争の異説では、シャアは宇宙に上がった直後にサンジバル単独でホワイトベースへの攻撃を行ったとされる。その際、トクワンはビグロで出撃し、セイラ・マスのGフル・イージーを一時的に制御不能に追い込んでいる。さらに、アムロ・レイのRX-7B-2 ガンダムをも翻弄したが、反撃を受けて撃破されたという。デミトリーはトクワンの仇討ちのため、シャアに胸撃でザクレロで出撃。ハヤト・コバヤシのRX-7F ガンタンクを圧倒するも、アムロのガンドムGバーツD装備に敗れた。

### ▶仇討ちを止めたシャアの意図

シャアがトクワンの仇討ちを面接するデミトリーを止めたのは、戦況を冷静に分析したからこそであった。



トクワンの脳死を知ったデミトリーは即座に仇討ちを上申したが、シャアは機會を待つようにしている。

### ▶MAIN MS

#### MA-05 ビグロ

公国軍が開発した宇宙用MA。高い機動性を誇り、トクワンの乗組以外にも数機が実戦投入された。



#### MA-04X ザクレロ

開発途中で計画が破棄された公国軍の試作MA。シャアが指揮したサンジバルに搭載されていたという。



# MSパイロット——ケリィ・レズナー——

## 忘れ去られたモビルアーマーとともに 雌伏の時間を過ごした隻腕のパイロット

ケリィ・レズナーは宇宙攻撃軍に属して一年戦争に身を投じた公国軍のパイロットで、アナベル・ガードの戦友でもあった。だが、戦いのなかで片腕を失って戦線離脱を余儀なくされ、失意のまま終戦を迎えることになる。その後はファン・ブラウンでシャンク尾を背む一方、秘匿するヴァル・ヴァロの改修を進めていたケリィだったが、U.C.0083のデラーズ・フリートの決起によって転機を迎える。挫折を味わった途端軍のパイロット——コウ・ウラキに自らの姿を重ねたケリィは、戦士としての自分を見つめ直して再起を決意。しかし、隻腕の自分がパイロットとして必要とされていないことを思い知られ、ガンダムを倒して自らの誇りを取り戻そうとしたのだった。



画面奥の家、ケンカで差向したコトと出会ったケリィは、自らのシャンク尾で復讐する。そして、歌姫たちを曲めしようとしたコウの裏手の下、ヴァル・ヴァロの修理を光景する。



ヴァル・ヴァロのノーマルスuitsは、一年戦争のものと見られる。

## ケリィ・レズナー Kelley Layzner

### DATA

年齢：不明 所属：ジオン公国軍／宇宙攻撃軍→民間人  
階級：大尉 出身：不明 能力：MS・MA操縦



デラーズ・フリートに  
加わるベーシマと接触するが、  
のちに自分と開拓すること  
が開拓してあることを  
知られる。



ともに開拓者トーフ、  
チップラに親戚の後を  
踏きながらも、騎士と  
しての真摯を盡してら  
れなかった。



シャンク尾を営んでいた  
娘の嫁親、外逃時にはジャ  
ンパーを握持した。



両腕を握してガンダ  
ムに組み、そのパイ  
ロットがコウを知つ  
てもなおパイロットの  
生き様を惜した。

### ► デラーズ紛争の陰で起こった戦い

U.C.0083 1102、アルビオンを脱出したコウと出会ったケリィは、行き場を見失った彼の面倒を見た。その一方で、シーマ・ガラハウと接触し、ヴァル・ヴァロを手土産でデラーズ・フリートへの参加を図った。だが、シーマが欲しているのがMAだけと知ったケリィは引き直しを拒み、同月4日に単身ガンダムに乗りを挑んだ。そして、月面での一騎討ちでRX-78GP01-Fb ガンダム試作1号機フルバニアンを追いつめたが、ヴァル・ヴァロは撃破され、ケリィも乗機と運命をともにしたのである。

### ► ガトーとの友情

ケリィの腕前はエースとして名高いガトーも認めるほどで、ガトーはケリィに完璧な復讐を期待するビデオレターを送っていた。



かつての姉  
妹の想いは  
ケリィの心  
を握り固か  
した。



### ► MAIN MA

#### MA-06 ヴァル・ヴァロ

一年戦争末期に開発された公国軍MA。ビグロの設計を受け継ぎつつ、さまざまな機能を盛り込んでいる。



戦闘の舞台となった地域



01

## 北大西洋での戦い

北アイランドのベルファスト基地から出発したホワイトベースを追跡するマッド・アングラー隊は、北大西洋上で襲撃を仕掛けた。ブーンの魔薬を受けたシャア・アズナブルが乗組したガンドムが水中用MAグラントと水陸両用MSによる攻撃を許さなかった。海中に飛び込んだガンドムが攻撃を試みて艦上には進って、海中では木の抵抗によって満足に動くこともできない。一方、水中での戦闘に特化したグラントは機動性を駆使してガンドムを跳ね、ついに相手を捕獲することができた。



ついにガンドムの右腕を破壊したグラント。

おれがこれによって次の飯食が被殺し、思ひぬ飯食を受ける事だ。

（シャア・アズナブル）

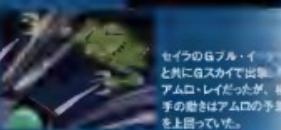
ガンドム、ガンペリー

02

## 軌道上での遭遇

シャプロード修理と補給を受けて宇宙へ上がったホワイトベースを、シャア・アズナブル率いるザンジバル級爆撃巡洋艦が追跡。するとトクワーン少尉がMAビームの強襲撃を敢行した。本来、ザンジバル級はビーム実戦試験のために開成されており、トクワーンはビグロバウトロードだった。そこにはホワイトベースの追撃を予測されたことによって、予定されていた実戦テストを行っていた。勇んで出撃した。

トクワーンはビグロの性能を遺憾なく発揮。ホワイトベースの沿岸部隊を一方的に攻撃した。



セイラのGフル・イーグルと共にGスライドで出撃したアムロ・レイだったが、相手の動きはアムロの予想を上回っていた。

Gスカイ、Gブルイージー

## ■北大西洋

北米大陸とヨーロッパの間に広がる大洋。両地域を結ぶ通常航路が結ばれていたが、一年戦争では公国軍潜水艦部隊と水陸両用MS部隊による通常航路作戦の標的となされ、多くの艦艇が海底の底に沈められている。

## ■地球衛星軌道

地球を周回する衛星軌道の総称。気象観測や通信を司る衛星が多く浮かぶ低軌道から、月やコロニーへの中軌道となるステーションが設けられた高軌道、地球の自転速度と同期するための静止衛星軌道など、いくつかのカテゴリーに分類される。

## ■ア・バオア・クー

公国軍が建造した宇宙要塞。宇宙要塞ソロモンと月面都市グラナダ、さらにア・バオア・クーを結ぶラインはジオン公国本土防衛線に設定され、連邦軍本拠地となった。

## ■フォン・ブラウン

月面で最大規模の恒久都市で、「フォン・ブラウンを制す者は宇宙を制する」と言われるほどの能を誇る。

03

## 高機動戦闘の果てに

Gブルイージーとドッキングしてガンダムになってしまった。ビグロの機動性はガンダムをも凌駕していた。高速からの一撃爆撃戦法で、トクワーンは実際にガンダムを倒すに成功している。だが何處かの攻撃後、アシデンツが発生した。それ違いざなに作はれたガンダムのマニピュレーターをビグロに引かかれ、そのまま牽引する形になってしまったのだ。その後、実際の急加速に晒されたビグロは気を失い、機動と見たトクワーンは直近距離のため子弾を放つ形になってしまったのだ。その際、実際の急加速に晒されたビグロは気を失い、機動と見えたマニピュレーターを引かれて、トクワーンはビグロとともに宇宙の深淵に……。



メガロ・曲球が発射され、直近距離で子弾を放したビグロが反撃に転じて、トクワーンはビグロとともに宇宙の深淵に……。

ガンダム

## 戦況の経緯

サビヒによる専制政治体制の確立を目指したのが一年戦争の正体と再評議する議員もいるが、本来の一年戦争の真義とは「地球連邦政府と連邦軍の圧制下から宇宙移民者（スペースノイド）を解放し、自治権を獲得する」ことだ。宇宙という環境に適応した人類からは新たな種族「ニュータイプ」が発生するだろうとのジオン・タイクンの予見に従い、地上からの支配を否定したのだ。しかし既得権益を擁護するともに支配階級の座に固執する連邦政府関係者や富裕層はスペースノイドと対立した。その結果、連邦政府へ独立戦争を挑んだのがジオビであり、これが一年戦争の発端である。

・1月3日 ジオン公国、地球連邦から独立を宣言。

連邦軍基地に対するコロニー砲とを繋ぐ電線。

・1月15日 ルウム参謀、勃発。

連邦軍艦隊が大敗、レビル将軍が捕虜となる。

・1月28日 ジオン公国、連邦政府への休戦条件締結の申し入れを行う。

・1月29日 レビル、脱出に成功。

・1月31日 レビル、「ジオンに兵なし」の演説を行う。

核兵器の使用禁止や捕虜の扱いを定めた「南極条約」締結。ただし休戦条約には至らず。

・2月7日 公国軍、地球侵攻作戦を開始。

・2月13日 連邦軍、「V作戦」を立案。

・3月1日 公国軍、第一次降下作戦開始。

・3月4日 黄道探査艇降下。

・3月11日 公国軍、第二次降下作戦開始。

・3月13日 公国軍、キャリオリニアベース駆逐。

・3月18日 公国軍、第三次降下作戦開始。

・4月1日 連邦軍、V作戦ビンソン計画を発動。

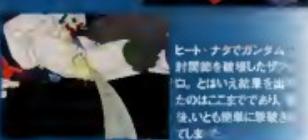
・5月17日 公国軍、宇宙要塞ソロモンを完成。

・6月 公国軍、本土防衛ラインを完成。

## 試作機での出撃

上官のトクワングが目前で敗れていたことから、サクレロのアーヴィ・ヨコモ、デモリーが仇討ち申し出た。しかしシャッパーは許可されて許可を乞うた。前回の戦闘で母艦であるサンジハル号が被弾し、その修理中であったことからモードが使わなかった理由のようだ。しかし納得できないデモリーは、シャアに無断で出撃。単身、ホワイトベースに襲撃を仕掛けた。試作段階で放棄された機体とは「機動性は良好であり、迎撃に向かってガムランを翻弄、軽く現れたガーダムモード(通常、ガンダム・スカイ)に翻り掛かる。だがガーダムのコンピューターで爆風に動きを阻まれた結果、すれ違いに機動性弱いビーム、サーベルで突かれ、トクワングの後を追いついた」。

ビグロ社がヒントを得てアムロが発案したガンダムMAモード。MSともMAともつかない「姿をEII...」  
デモリーは「出来無い」と指摘した。



→ ガンタンク、ガンダムMAモード

## ア・バオ・クー攻防

一年戦争最終局底、サザン3本柱への進攻を図る地球連邦軍に対して、ジョン・公国軍は宇宙要塞ア・バオ・クー砲城にて絶対防衛圏を構築。連邦軍艦隊を迎撃する作戦を実施した。しかし物語に進む連邦軍を相手に、戦場は徐々に劣勢に傾いていく。そこで公国軍は完成したばかりの試作兵器の投入を決定。第603技術試験隊にて、「機動前装機銃所属」の機能を持つMAビッグラングによるEフィールド防衛波を実施展するに成功した。実戦級機のない(桂士官オリバー・マイの操縦ながらビッグ・ラングは苦戦。少なくともボルトを撃、ジム2機、マゼラン被撃倒!)隻、サラス級巡洋艦5隻を撃破。懇意な友軍の活路を切り開くべく、星最後まで戦場に留まつた。

モビルボト「オーフ」と連携したビッグ・ラングは、伸びやかな連邦軍艦隊を相手に奮闘。この戦闘だけでエース以上の大成績を挙げている。

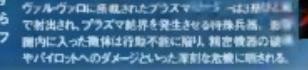


→ 地球連邦軍

## 月面での知られざる戦い

U.C.0083.11.04、旧公国軍MAヴァル・ヴァロが月面都市ベン・ブランに接近。AE(アナハイム・エレクトロニクス)社リバモア工場で改修作業を受けたガンダム試作1号機フルバーニーとの決戦を申し込んでいた。パイロットのケイ・レスナーはデーターズ・ブート入りを希望していたのだが、シーマ・ガラハウの企みによって希望が満たされない。自らとヴァル・ヴァロの実力を示すと考えたうえでの暴挙だった。月面都市を人質にされ、難得もでさず、やむなくコム・ウラキがフルバーニーで出撃。月面でどちらにも戦闘服が着用できることになった。Z向の機動性とビーム、ライフルを強調飛ばす防衛性能、さらに裏の手のプラスミーノーダーーを用いたヴァル・ヴァロがフルバーニーを圧倒するかと思われたのだが……。

しかしビクロの最大の機である機動性を失った巨体は他の集中火力的になって敗北。ついには跳躍に成功し、味鋤部隊に敗退。

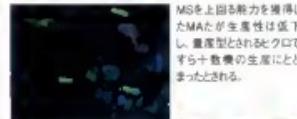


→ 地球連邦軍

## MS OTHER 戦記

MAの出現とその意義

一年戦争にジョン公国軍が投入したMAは、MSとは異なる設計思想の下に生まれた。人型を模したMSはその高い汎用性によって從来の兵器に対する圧倒的な優位性を獲得したが、汎用であるがゆえに、特定の状況下では十分な能力を発揮できないという事態が発生した。その打開策として、大型に拘せず、特定の目的(拠点防衛や専門的な装備、大火力による爆破など)に特化した機動兵器の開発が提唱され、これがMAの原点となった。また一年戦争中期以降の公国軍は、地球連邦軍が投入したRX-78 ガンダムの超絶的性能に奮起、「脆弱な汎用機を多数建造するよりも、強大的高性能機を少數投入して戦場の主導権を握るほうが効果的」との見解から「量より質」の開発計画を実現するようになった。その結果、ビグロに代表される高機動タイプとビッグ・ラングのような大型・剛健型タイプ、さらにエルメスのようなNT専用MAが相次いで誕生した。

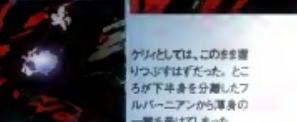


MSを上回る能力を獲得したMAが生産性は低下し、量産型とされるビクロですら十数機の生産にとどまつた。

大戦末期、連邦軍はビムを主力とする物量攻撃戦闘「質より量」というMAとは真逆の戦略で公国軍を圧倒している。



本家の救援もあって結界から脱したフルバーニー。一方、ヴァル・ヴァロの攻撃の手を離す。ついにローブームで捕獲に成功した。



ケイとしては、このまま戻りつづけはだつた。ところが半身を分離したフルバーニーから爆食の一撃を受けてしまった。

→ ガンダム試作1号機フルバーニー

## MAというカテゴリの衰退

一年戦争中以降、ジョン公国軍によって実戦投入されたMAだが、戦後は第一線に現れない。これにはMS開発技術の発展が関係している。汎用性と特定条件下的機能性を秤にかけて後者を重視したMAだが、可変機構の実現によって、その両立が可能になった。キャブランやアシマニーに代表されるTMA(可変MA)、ZガンダムやガガなどのTMS(可変MS)がこれに相当する。非常に可変式のMAは決戦兵器や特殊用途車としての性格を強くし、生産数も限界された。

TMAのアシマニーは、MA形態に変形することで航空機並みの飛行能力と優れた機動性を発揮できる。



WV(ウェイブライダー)に変形して大気圏外突入に挑むZガンダム。ごく可変機の登場がMAを排斥した。

## U.C.0079

- 9月18日 サイド7にて史上初のMS同士の戦闘が発生。
- 8月23日 ホワイトベース、地球に降下。
- 11月7日 連邦軍、オデッサ作戦開始。
- 11月24日 グラブル、北大西洋をホワイトベース隊と交戦。
- 11月30日 公国軍、ジャブローへの降下作戦開始。
- 12月・ビグロとザクレロ、ホワイトベース隊と交戦。
- 12月31日 ア・バオ・クー攻防戦開始。
- U.C.0083
- 11月4日 ヴァル・ヴァロ、フルバーニーと交戦。

# MS進化論

## KEYWORD

### モビルアーマー

オラン公国軍が開発した半人型の兵装で、正式名をM.A. (Mobile A.R.M.O.U.R. (All Range Maneuverability Offence Utility Reinforcement -全範域汎用支援強化))。大威力とメガ粒子砲を備えた機体が多く、その機体サイズからサイコミュ機体も試作された。

### MIP社

オラン公国軍の兵器メーカーのひとつ。同社が開発した試作機であるMIP-X1を改良し、MAを開発した。ビーム兵器の開発にも取り組んでいた。主な開発機体として、MA-05 ピグロ、MA-04X ザクレロ、MSM-07 ゾックなどが知られる。

## [U.C.0079 MA-05 ピグロ]

MSと対をなす存在といえるMAは、特定のフォーマットを持たず、人型に制約されない兵器だった。そのなかでもピグロは、完成した機体のひとつで、様々なバリエーションが展開された。

## MA-05 ピグロ

ジオン公国軍が開発し、実戦に投入した最初期のMA。開発はMIP社が担当し、同社製のMIP-X1を発展させることで完成させた。黒塗りロケット・エンジンによる大推力と、1対のクローアームをAMBAC 戦とすることで高い運動性を獲得。後継は北米のキヤフィルニアベースで行われた。初期には分離される機体は12~14種が開発され、その後も数種類のバリエーションが開発されたことでも知られる。

## 発展

### MIP-X1

MIP社が開発した試作機、宇宙戦闘機のような形状の機体に、AMBAC用のクロームを備えていた。ジオニック社のZI-XA3とのトライアルに敗れたが、機体などを見直すことで、後のMAが開発される原型となった。

## 生産

### MA-04X ザクレロ

MIP社による試作MS。ヨフミ家の資金援助があったが開発は大幅に遅延。大推力を用いた一撃離脱逃走を想定していたが、運動性や低速ビーム砲の射程などの問題から開発は頓挫された。それでも数機が建造され、試作兵器のテストベースになったほか、実戦配備された機体もあったとされる。

## 生産

### MA-04-X

ザクレロ(デューサ原仕様) 宇宙要塞・アバオア・クーに配備されていたとされるザクレロ。抜ぬけメガ粒子砲の発射口にシャッターが設けられるなど、わずかな差異が認められる。

## ハンドメイド カスタマイズ

### MAN-00X バチザード

ニュータイプ専用のMAで、フラナガン機関からザクレロをベースに開発したと言われる。2種のビームを装備

## ニュータイプ 仕様

### MA-04-X-3 ウムカルナ

ジオン公国勢力が開発した機体。機体後部にはミサイルを内蔵したコントナを運搬している。

## 発展

### MAN-00X-2 ブランレロ

ザクレロの試作機にサイコミュと有線式メガ粒子砲を装備した機体。ランダム式のコウビットを搭載した。

# ジオン系組織におけるMAの発展と進化



MA-05M

ビグロ・マイラー

ビグロの装甲とジェネレーター出力を強化したバリエーション。スクスターも増設されており、機動性も向上している。腕部も形状が変更されたほか、対MSビーム砲を追加するなど、攻撃力も強化された。



MA-06

ヴァル・ヴァロ

ビグロを改良、発展させる形で開発された宇宙用MA。ジオン公国軍が開発したMAのさまざまな長所を取り入れたことで、極めて多機能な機体として完成した。しかし、一年戦争では活躍の場は与えられず、UC 0083に月面において運用されるに至った。

発展

水中用



MAM-07 グラブロ

ビクロをベースとして開発された水中用MA。唯独で地球を一周することが可能なほどの大範囲距離を誇ったと言われる。サンディエゴの潜水艦ドックで3機が就役され、うち1機がマッド・アングラー隊に配備された。

AMA-X7 シャンプロ

UC 0086にジオン残党軍が建造した本格運用の試作MA。第一次ネオ・ジオン戦争時の設計案をベースに「袖付き」の援助を受けて完成した。大口径メガ粒子砲に加え、氷鎧+ガス子砲、リフレクター・ビットなどを装備



MA-05R  
ビグ・ルフ

ビグロの強化型である機体。敵艦隊への攻撃が目的で、機体下部に大型ミサイルを装備する。重量増加による推力を稼ぐため、2基のブースターを増設、3機が本仕様に改修されたといわれる。



MA-05Ad

ビグ・ラング

アーバー・クー攻撃戦の直前に完成した魚雷兵器。制御ユニットに、後継型にあたるビグロの6号機を使用し、Adユニットを装備している。型番番号末尾の「Ad」は「Ammunition Depot=爆弾庫」を意味する。



MAM-07-X3

グラブロ試作水中ビット  
搭載型

グラブロをベースとする試作MA。左のフローを駆け外し、水中用ビット専用のパイロンを設置する。水中用ビットを操作するために複合通信システムやソナードームなども追加で装着。試験運用ののち、通常のグラブロに戻されている。

非人型兵器であるMAは、MSに比べて汎用性に劣っている。しかし、ペイロードの大きさは大出力ジェネレーター+ヤムガ粒子砲をはじめとする各種長武器。さらにはサイコミといった機器のプラットフォームに優れていた。一年戦争後、アグスをはじめとするジオン残党勢力によって、MAは余命を保ち続けるのだった。



AMA-X2  
ノエ・ジール







# メガ粒子砲

宇宙世紀を代表する指向性エネルギー兵器であるメガ粒子砲は、突出した火力を有するうえ、小型化も進んでいる。艦砲やMS用のビーム・ライフルなどとして広く採用されており、この傾向は誕生から80年以上を経たザンスカール戦争においても変わっていない。



## ミノフスキーブーム火器の 高性能ビーム火器

MAWS (Minovsky-theory Applied Weapon System=ミノフスキーブーム火器)あるいはMBW (Minovsky Beam Weapon=ミノフスキーブーム火器)と呼ばれるミノフスキーブーム火器は、ミノフスキーブーム火器を応用した兵器技術の中でも、指向性エネルギー兵器として知られるものが「メガ粒子砲」である。このエネルギー兵器はムサイ級軽巡洋艦をはじめとする宇宙艦艇の主砲、MSM-03 ゴッグや MA-05 ビグロといった機動兵器の主兵装などとして広く採用された。RX-78 ガンダム用に代表されるビームライフルもメガ粒子砲の一種だ。

メガ粒子砲は、ミノフスキーブーム火器を縮退・融合させたメガ粒子を「重光道」で発射する火器で、ピンポイントの火力は核兵器に勝るとまでいわれる。ほかにも、85%以上に達するエネルギー効率(レーザー火器の約4倍)、小型化が容易、防禦技術の難航など、火力以外のメリットが多い点も特徴となっている。

こうしたメリットが高く評価され、一年戦争直前には指向性エネルギー兵器の大手は、メガ粒子砲が占めることになった。この状況は長らく変わっておらず、UC0150年代においてもメガ粒子砲の時代が続いている。

## メガ粒子砲の登場と 加速度的な発展

メガ粒子砲が完成したのは、UC 0070.05、ジオン公国でのことだった。ほぼ同時期に地球連邦軍でも実用化され、初期には艦砲や要塞などとして配備が進んでいった。

一年戦争の時点ではメガ粒子砲は高度な火力を有しており、宇宙戦艦や宇宙巡洋艦を一撃で撃沈した例も多い。その一方で有効射程が短い（一説には「数km」）、大気やビーム攪乱波による減衰が大きいといった問題点も指摘されており、実体弾式火砲やミサイルとの併用例が少なくなかった。実際、ベガサス級強襲揚陸艦ホワイトベースは主砲を実体弾式、副砲をメガ粒子砲とした。もっとも、射程を中心とした問題点は一年戦争後に改善されたうえ、火力や速射性なども向上していき、艦砲はメガ粒子砲にはほぼ統一されるに至った。

高出力の核融合炉（融合炉）が必要なことも欠点だったが、一年戦争中期に実用化されたエネルギーCAPにより、MSでもビーム・ライフルとして装備可能となっている。

## TECHNOLOGY INFO

### メガ粒子砲以外の大型ビーム兵器

メガ粒子砲以外にも様々な指向性エネルギー兵器が開発された。メガ粒子砲の黎明期には特にこの傾向が強かったようで、公国では次世代攻撃兵器開発組合プロジェクトにおいて様々なビーム兵器が試作されている。そのひとつが全長231.0mの核融合超大型プラズマ・ガン「QCX-76A ヨルムンガンド」と呼ばれた大型火砲である。



核融合プラズマ・ビームを収束か拡散でしか発射できない。つまり、直線上から扇状の散布界にいる目標しか攻撃できず、身を隠した敵機を撃破するには複数機ごとに撤除するか迂回の必要があることは、重力下においてもビームが後退しないことを意味し、実体弾式火器のように山なりの弾道を利用した間接準射撃が困難である。

### メガ粒子砲の特性

メガ粒子砲が、ほかの指向性エネルギー兵器より評価されるのは、火力、エネルギー効率、コンパクト性といった特徴による部分が大きい。亞光速までいわれる弾速、磁場環境の影響を受けにくい電気的な中性。それらの上の高い命中精度（標準偏差の正確性が少ない）も特長で、欠点を補って余る火器となっている。



### ■メリット

#### 1 大火力と高いエネルギー効率

ほかの指向性エネルギー兵器と比べて火力に優れるうえ、レーザー砲の4倍近くに達する85%以上のエネルギー効率を誇る。同じ動力源を用いた場合、メガ粒子砲はレーザー砲の4倍近い火力を発揮できる計算となる。その威力は圧倒的で、MAアラスラ用は核爆発にすら耐えるジャブローの岩盤を貫通可能とされた。



#### 2 小型化と必要出力の軽減が可能

当初、メガ粒子砲は艦砲や要塞砲といった大型モデルが多く、その構造には大出力のジェネレーターが必要であった。だが、MSの発展にともないメガ粒子砲の小型化が進められ、ビーム・ライフルは全長9m程度がそれ以下まで小型化。さらに比較的低出力な機体でも使用可能となり、MSの主兵装として普及した。



#### 3 兵站への低い負担

兵站ごとに異なる弾薬が必要な実体弾式火器と異なり、メガ粒子砲は「弾の元」となるミノフスキー粒子を融炉から得られるため、兵站への負担が小さい。消耗品の交換は必要となるが、実体弾式火器のように「ザク・マシンガン本体はあるのに、弾薬がザク・バズーカ用しか使えないため使用できない」といった事態になりにくく。



### ■デメリット

#### 1 間接照準射撃が不可能

メガ粒子砲は、ビームを収束か拡散でしか発射できない。つまり、直線上から扇状の散布界にいる目標しか攻撃できず、身を隠した敵機を撃破するには複数機ごとに撤除するか迂回の必要があることは、重力下においてもビームが後退しないことを意味し、実体弾式火器のように山なりの弾道を利用した間接照準射撃が困難である。



#### 2 「弾薬」の不在

弾薬の不在は兵站面での利点だが、それゆえに多用途性が低い欠点があり。実体弾式火器は対装甲貫通力を重視した徹甲弾、飛翔中に起爆し破片を散布する榴弾、大量破壊兵器の核爆弾など様々な弾薬が存在しており多用途性に秀でる。メガ粒子砲も発射モードの切り替えが可能だが、選択の幅は大きくな。



#### 3 対抗手段の登場

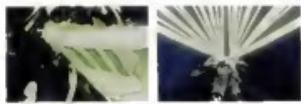
メガ粒子砲（特に初期のモデル）は空気中や水中での減衰が大きい欠点があり、絶対的な攻撃手段ではない。また、ビーム或蒸気ガスを散布するビーム攪乱装置、メガ粒子をほぼ完全に遮断するワイルド・ジェネレーター、ビーム・ライフル程度なら問題なく防衛するビーム・シールドなどの対抗（防衛）手段も実用化された。





## メガ粒子砲の分類

ビーム・ライフルがメガ粒子砲の一種であることは既に述べたが、それ以外にもメガ粒子砲はいくつかのカテゴリーに分類できる。発射モード、メカ粒子の発生方式、砲身の形状などによる分類が代表的なものである。ただし、各メガ粒子砲がどれかひとつのかテゴリーにのみ属するではなく、複数にまたがっている例も多い。



収束や拡散が可能なクイン・マンサの胸部メカ粒子砲など、複数の発射モードやエネルギー供給方式を有するモデルも。

### ■光射モード

#### ■収束

ビームを収束し、線状に発射するタイプ。射出区画にフィルト発生装置を設け、砲口部で発射角度の修正が可能なものには偏向型メガ粒子砲と呼ばれる。

UC 0090年代中期の連邦軍

宇宙艦艇が標準的に搭載した

主兵種メガ粒子砲は基本的に

収束型である。



#### ■拡散

砲団の中に収束率を下げ、シャワー状にビームを発射するタイプ。拡散メガ粒子砲と呼ばれ、MAでの採用例が多いが、この機能を持つビーム・ライフルも存在す。



可変 MA サイコ・ガンダムの枝

散メガ粒子砲は砲口で拡散

両後に拡散するもの、収束型を

変更した例もある。

### ■メガ粒子砲の派生型

艦砲として誕生したメガ粒子砲はいくつもの派生形を生み出し、培われた技術によってビーム・サーベルが誕生した。

## メガ粒子砲

ハイ・メガ・キャノン

メガ・コンデンサー

メガ・ランチャー

偏向型メカ粒子砲

ビーム・サーベル

ビーム・ライフル

エネルギーCAP

拡散メガ粒子砲

### ■メガ粒子発生方式

#### ■シェネレーター直結式

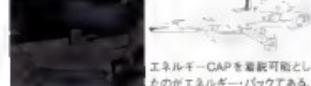
熱核反応炉（シェネレーター）から直接的に得られる電力とミノフスキー粒子を用い、メカ粒子を発生させるタイプ。大出力シェネレーターが必要となる。



の仕様

#### ■エネルギーCAP式

融合寸前のミノフスキー粒子を蓄積しておく、エネルギーCAPを搭載した仕様。ビーム・ライフルの大部分が該当し、比較的低出力のMSでも使用可能である。



エネルギーCAPを蓄積可能としたのがエネルギーCAP式である。

#### ■メガ・コンデンサー式

MS本体に内蔵したメガ・コンデンサーに充電することで、ミノフスキー粒子の圧縮を可能としたタイプ。出力は従来の10倍で、主に第四世代MSが採用。

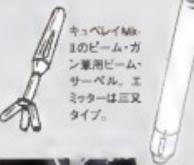


ハイ・メガ・キャノンが代表的なモデルである。

## MORE INFO

### 格闘兵装兼用型

メガ粒子砲の運用に関するハードルを下げるため、エネルギーCAPは、ビーム・ライフルだけでなくビーム・サーベルにも採用されている。これはビーム兵器とビーム・サーベルの両立が可能なことを意味し、実際にビーム・サーベル兼用のビーム火器が複数実用化されている。



一年戦争時、ゲルグツの一部などで試験的に採用されたという。戦後、ガンダム試作1号機も搭載している。

## MORE INFO

### 低火力のビーム兵器

メガ粒子砲の小型モデルには低火力のものも存在する。未開発のビーム・ガン、目標用の低出力の拡散ビーム砲などが該当するが、Vガンダムのビーム・ピストルのようにシステム、ウェポンの一環という例もあった。



低火力とはいえたメガ粒子砲の一種であるため、命中箇所によってはMSを無効化させられる。



F90Ⅲ クラスター・ガンダムはビーム・バルカンを装備、実体模式と同じく制御面である。

# ビーム兵器の普及と 新型メガ粒子砲の登場

メガ粒子砲は稼働に大出力を必要とするため、初期のMSでは搭載困難であった。この状況を変えたのが、一年戦争中に地球連邦軍が実用化したエネルギーCAPであり、MSでも使用可能な汎用型「メガ粒子砲」「ビーム・ライフル」が完成。加速度的に普及していった。軍事予算や歩留まりの問題からか、UC0080年代前半にはビーム・ライフルの装備率は減少したものの、UC0080年代後半になるとほぼすべてのMSが標準的に装備するに至った。分離式のエネルギーCAPである「エネルギー・パック」が普及始めたのもこの頃である。

MS用メガ粒子砲の発展は続々、管制にMSを用いる大火力・長射程の大型ビーム兵器「メガ・ランチャーラー」、そしてメガ・コンデンサーによる直結式メガ粒子砲である「ハイ・メガ・キャノン」が登場した。なかでもMSに内蔵可能なハイ・メガ・キャノンは、ドライブに大出力ジェネレーターを必要とするものの、核兵器以外では最大級の火力を持つMS用兵装となっていた。ネル・アーガマなど一部の艦艇では、コロニーレーザーの破壊力をを持つ「ハイ・メガ・粒子砲」が採用され、当時の火力重視の戦術環境を体現することになった。

## TECHNOLOGY INFO

### 艦艇、MS、MA以外のメガ粒子砲

メガ粒子砲に先駆けたジオン公国軍だが、艦艇や基地施設、MSやMA以外への搭載は実現しなかった（戦闘機アッザムのような例外もある）。一方の地球連邦軍は、戦闘機やMS用支援メカなどにもメガ粒子砲を搭載した。なかでも多目的戦闘機コア・ブースターやGファイターは強力で、高度な火力と機動性により、少なからぬMSを撃墜したのだった。



一年戦争後に開発された、地球連邦軍の大気圏内用GP-Sベース・ジャマー。メガ粒子砲を搭載した、珍しいSFSだ。



FF-X7Bst コア・ブースターは、増加ブースターにメガ粒子砲を2門備えている。



コベイトウ領域の防空用戦闘人工衛星。武装に3門のメガ粒子砲を含む。

**メガ粒子砲の搭載位置と搭載形式**

艦艇や機動兵器におけるメガ粒子砲の搭載位置や搭載形式（方法）は、合理性や設計の都合によって自ずと決まつてくる。著名なのが艦艇であり、旧世纪の海艦船同様、砲塔として各部に搭載された。MSと比較して簡素な構造のMAの場合、胴体の中央（機体の中心線上）に搭載するのが設計上、理想的といえる。

### ■宇宙艦艇

艦艇のメガ粒子砲は、射界を広くとれる砲塔形式で搭載される。ネル・アーガマのハイ・メガ粒子砲のように複数回域を持たないものも存在するが例外的だ。宇宙で運用される艦艇上、全周囲が攻撃範囲となるため、艦艇に砲塔を設ける艦も少なくない。



艦の「上下」や艦艇形態を決める必要もあり、上側に艦橋が多い。ベスラ艦は上下の区別が少なく、砲塔の搭載数も上下で変わらない。

ただしMSは複雑で、手持ちのビーム・ライフル以外、統一的な搭載位置が存在しない。ある程度傾向こそ見られるが、前脚、胸部、腰部、バクバクなど機種によって異なるのが実情だ。兵器の進化にともない兵器の搭載位置は統一されいくものの、MSの場合、ビーム・ライフル以外の収容が定まっていない。



機体と艦橋をつなぐ補助構造に、メガ粒子砲3基を搭載したムサイ級 攻撃戦闘は前方180°ほど。



艦艇の円形構造部にメガ粒子砲を搭載する「ワットベース」、メガ粒子砲は使用時ののみ展開するタイプ。



メガ粒子砲搭載シートは腕部に装備 ZZガンダムは合体变形機構の都合もあって、頭部に大口径メガ粒子砲を搭載

### ■MS

MS用メガ粒子砲は手持ち式のビーム・ライフルがスタンダードであり、通常は右手に装備される。手持ち以外のメガ粒子砲の場合、統一的な搭載位置は存在しない。例えば支援用MSと可変MSでは仕様が異なるため、搭載位置に違いが生じる。MSの設計の自由度も、搭載位置が統一されにくい点である。

#### 汎用MS

ビーム・ライフルを手部に搭載。射界が圧倒的に広い。



「手持ち」であり、内蔵しない。



#### 水陸両用MS

水の抵抗を軽減するため、前脚や旗部に内蔵する。



水の抵抗を考慮した設計に。



#### 第四世代MS

重火力の各種火砲を全身に搭載する機体もある。



ネオ・ジオンは搭載戦が多い。

### ■MA

ザクロロやビグロなどの初期のMAは、メガ粒子砲を中心に設計されたとすら言える機体であり、胴体の中央にメガ粒子砲を配置した。ただし、MSと異なり定型が存在しないため、ブラウ・ブロモはじめとする有線攻撃隊末搭載機やネオ・ジョングなどの半人型機は、メガ粒子砲の搭載位置が機体各部に分散している。



胴体に一対の可動性を備える機種は、胴体中央への搭載例が目立つ。ニュータイプ機は末端部に搭載することも。

ビグロは胴体中央にメガ粒子砲を内蔵。MAとしては標準的な搭載位置。



ビグロのメガ粒子砲は機械のシャッタで閉鎖され、射撃時のみ解放する。



ソディ・アツクの射撃形態 機体を廻し、200m程のメガ粒子砲が冒出。

# 一年戦争期の世界 (宇宙)

宇宙世纪最大の紛糾となつた一年戦争は、4つのサイドを巻きこむ大規模な戦争であった。しかし、人類史上最高の宇宙戦争でもあった。宇宙が主戦場となつたのは、陸戦と並んで海戦の短い期間に過ぎなかつたが、その間に宇宙の勢力図は大きく変化したのである。

## 人類が初めて体験した 宇宙戦争の舞台を振り返る

U.C.0079.01.01、宇宙には100億以上の人々が居住していたが、およそ2週間後にはその半数が失われてしまつた。1月3日に一年戦争が勃発し、NBC兵器を無制限投入したジオン公国軍の攻撃により、サイド1・2・4・5が壊滅したのである。これが一年戦争の緒戦となつた一週間戦争とルウム戦役であり、地球連邦宇宙軍も深刻な打撃を被つてゐた。

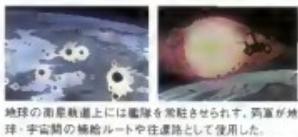
一年戦争の名称のとおり、地球連邦とジオン公国の宇宙戦争は約一年続くが、しばらくの間、宇宙が主戦場となることはなかつた。ジオン公国軍の地球侵攻作戦により最前線が地球に移行したうえ、半年に及ぶ戦線膠着が続いたためである。これは一年戦争の緒戦で破壊されたコロニー群が放置されたこと、宇宙におけるジオン公国の本土防衛ラインが強化されたことも意味する。

宇宙が再び主戦場となつたのは、12月24日に発生したソロモニア攻防戦のことである。同月31日のアバオア・クー攻防戦の直後、月面都市グラナダで終戦協定が締結され、一年戦争は終わりを迎えた。このように一年戦争において宇宙が主戦場となつたのは短い期間だったが、その戦禍はあまりにも大きかつた。

## 一年戦争における宇宙の変化

下記の3種の地図図マップは、上から順に一年戦争中期、一年戦争終発時、一年戦争終結時を示している。一年戦争中期のマップが一般に「一年戦争期の地図圖」として認知されているもので、宇宙要塞モーア・ハオア・アバ・アバ、宇宙要塞ソロモン・月面都市(墓地)グラナダからなるゾン公園の本土防衛ライン、壊滅状態のサイド1・2・4。

L3地域に駐留された地球連邦軍の勢力圏などを見る事ができる。この時期、ジョン公国は本国が位置するL2、ソロモンを確定したL5、グラナダを中心とする月の裏側の一部を勢力圏としており、優勢であった。隕石で戦災を被らなかったサザンは緩衝地帯や交渉窓口として機能しており、地球連邦、ジョン公国の橋渡し役となっていた。



第一次世界大戦中期の地図



#### ■一年前免許試験の地図題



#### ■一年間最終時時の地時間



#### LOCATION INFO

#### 一週間毎月を生産延びた3日二

一週間戦争の際、サイド1・2・4は公国軍の大規模攻撃を受けて壊滅したが、これはすべての各サイドのコロニーがひとつ残らず破壊されたという意味ではない。少なくからぬコロニーが生存しており、その歴史的事件に間に合した。たゞ、ルウム駕船におけるサイド5の生存コロニーは確認されていない。

■ 30 バンチ

サイド1・30パンチ、反連邦政府デモが行われていたU.C.0085.07 30、ティターンズの毒ガス攻撃で爆滅。激発性の伝染病との生き残れ。



■シャングリア

サイド1・1パンチ。第一次ネオ・シンオン戦争初期、エウーゴ艦《アーガマ》とアケシス艦《エンドラ》が入港し、数度にわたる火の粉が舞った。



■ 亂世春秋

■ モルガルアブ  
サイド2・13パンチ。アルプスを再現した鏡光コロニーである。グリップス駐役時、エウーゴ、ティターンズ、アクシズによ



## ■一年戦争時の地球圏各地

ここでは、一年戦争時の地球圏（地球を除く）の主要地域。つまり各サイド、月、宇宙要塞相対的な位置や当時の状況を解説している。7つのサイドのうち、サイド3とサイド6を除くコロニー群は深刻な損害を受けるが、ほぼ全滅。一方、両軍の宇宙基地は機能しており、軍事拠点としてだけでなく、宇宙艦艇や機動兵器の開発も担っていた。

### ソロモン（コンペイトウ）

L5に固定された、公国軍の小惑星基地（宇宙要塞）で、宇宙攻撃軍の拠点。L5への移転と完成は開戦後のこと。ルウム戦役では一部艦隊の出撃拠点となった。12月24日、連邦軍の「チエンバロ作戦」を受けて陥落し、以後は連邦宇宙軍の鎮守府「コンペイトウ」に改名された。



月

地球唯一の衛星。裏側に位置する月面都市グラナダは、歴史的にサイド3との関係が深く、開戦直後に公国軍が制圧。突撃機動軍の拠点とされた。他の月面都市は廃棄条約中立地帯となり、連邦軍と公国軍は攻撃や軍事利用を禁止された。一部では反公国レジスタンスが活動。



### サイド3（ムンゾ）

月の裏側に位置するサイドで、シオン公園（以下「公園」）の本拠。戦災はほぼ受けていない。政府コロニーの「パンチ＜ズム・ティ>」には公主狩があり、ガルマザヒの国葬などの舞台となつた。スラム同然といわれた3パンチ＜マハル>は、一年戦争末期にアーバレイに改修されている。



### サイド3（ジオン公園）



L2

グラナダ



ア・パオ・ア・クー



### ア・パオ・ア・クー

サイド3と同じL2に衛星された、公国軍の宇宙要塞。小惑星をふたつ接続した、傘のような形状が特徴である。連邦軍の「星一作戦」の「星」は、この要塞を指す。一年戦争末期、ケレン・サイフ提督とキシリア・サヒ荷が直接指揮を執り、事実上の最終決戦が展開された。



ヘズン

L4宙域に位置した公園軍の小惑星基地。「ヘズン計画」と呼ばれるMS開発が進められたという。戦後、連邦軍が駐屯。

### サイド6（リーア）

一年戦争直後に中立を宣言したサイド。ランク政策は公園の後ろ盾で誕生しており、攻撃対象とならなかった。Bパンチ＜バルダン>に公国軍のニュータイプ研究所「フラカン病院」が置かれる一方で、<リバー>では連邦軍のMSを秘密裏に受け入れるなど両勢力と通じていた。



サイド5



L1

サイド2



L4

サイド6



ソロモン



サイド4



サイド7

### サイド1（ザーン）

史上初のサイド、一週間戦争で公国軍の攻撃対象となり、多くのコロニーが破壊された。核攻撃を受けた13パンチはそのひとつ。ソロモン戦では、サイド1の残骸に連邦軍のティアム艦隊が秘密裏に布陣し、ソラーラシステムを展開。ソロモン籠落の直接的きっかけとなった。



### サイド4（ムーア）

サイド1と同じL5に位置するサイド、一週間戦争で全滅に近い被害を受けた。戦後、コロニー再生計画の対象となった。



### サイド7（ノア）

日の反対側のラグランジ点に建設されたサイド。名目上こそサイドだが、一年戦争時は未完成の1パンチのみしか存在しない。連邦軍の「作戦」でMSの試験地となつたが、公国軍の攻撃を受けて1パンチは放棄された。この戦、史上初となるMS同士の実戦が行われた。



### サイド7

L3



ルナツー

### ルナツー

L3に置かれた地獄連邦軍(以下「連邦」)の拠点。元々は資源探査のため地球圈に移送された小惑星ユード。全幅は180kmにも達する。サイド3から逃いたルウム戦役後も公国軍の大規模攻撃に晒されず、維持され続けている。宇宙での反攻作戦に備え、宇宙艦船やMSの生産も担当した。



### サイド5（ルウム）

L4に建設された、当時唯一のサイド。U.C.0050の時点では20億の人口を抱える大規模コロニー群だったが、ルウム戦役で徹底的に破壊され崩壊領域となつた。ルウム戦役でコロニー落成に利用された11パンチ<クトホート>、観光コロニーの<モキサス>などがある。

### サイド2（ハッテ）

L4に位置するコロニー群で、森勃斯のサイドのひとつ。一週間戦争で公国軍の猛攻を受け、甚大な被害を出した。その際、Bパンチ<アーランド・イブノンシュ>はGGカスで住民を虐殺されたうえ、ブリティッシュ作戦で地球上に落下し、破片が臺灣や北米などに落着している。



# GUNPLA Generation

ガンプラ ジェネレーション

vol.23

## MA-05 ビグロ

思い返せば、ガンプラで最初に商品化されたMAはビグロであった。MSと比べるとMAはさすがに商品展開が乏しいため、今回は「ビグロ+α」という変則的なスタイルにして、小ネタを描いていこう。

## [特別企画] ジオン軍宇宙巡洋艦ムサイ

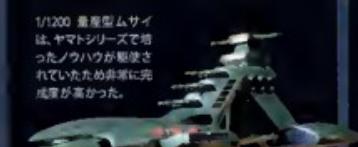
ビグロやそれと近い形態のMAのガンプラだけではページが埋まらぬため、ここでは特別企画としてジオン公国軍の宇宙巡洋艦ムサイについて触れてみたい。

最初に発売されたガンプラは1/144 ガンダム、次いで1/100 ガンダム（共に1980年7月発売）というお約束の展開であったが、じつは3番目に発売されたのは1/1200 重量型ムサイ（1980年発売・価格324円）なのだ。これは当時バンダイ模型が商品展開していた「宇宙戦艦ヤマト」シリーズが大いに売れていたため、「MSだけでなく、やはり主力駆逐艦を早めに商品化していくべきなのでは？」という手探り状態のマーケティングリサーチに基づく結果であった（ちなみにやはりMSのほうがニーズが高く、シア専用ムサイの発売は1981年2月まで引き延ばされることに）。

そこから実に24年後、まさかの商品化となったのが1/1700 EX モデル ムサイ（2004年12月発売・価格3,024円）だ。こちらはフル3D CGアーリー機動戦士ガンダム MS IGLOO に合わせた内容となっており、其細密なディテールが完全再現されている。

1/1200 重量型ムサイ

は、ヤマシリーズで培ったノウハウが駆使されていたため非常に完成度が高かった。



「高額商品なので製品内容に妥協体しない」というEXモデルシリーズ製品だけに、EXモデルムサイは完璧の逸品。

ガンダム・シリーズの長寿化に尽力してきたバンダイ製ガンプラ、その進化の過程を機体ごとに紐解いてみる。

「ヒグロそのもの」はもちろんだか。  
コンセプトの附いたMAもあわせて紹介！

劇 中でどれだけ活躍しても、人型ではないその特異な形状ゆえに憲法移入がしづらい——言ってしまえばMAとはそういう存在である。どくにガンプラの場合は「見て楽しむ」のではなく「音楽して楽しむ」ものである以上、MAのキット化数が少ないのはある意味自然な成り行きだろう。

そうした状況下において、「機動戦士ガンダム」シリーズ初のMAの商品化となったのが1/550 ビグロであった（1981年9月発売・価

格がに水中用であるものの、ビグロとの統一コンセプトにより脱糸されたのがよく分かるグラブロのシルエット。



フォルムの把握がしやすいデザインだけに、ビグロと同様にプロポーションは「極めて良好」と言うことができるだろう。

そして最後に紹介するのは、番組初オンエア時から各方面にて、ある意味で開拓視されていた1/250 & 1/550 サクロロ（1982年8月発売・価格540円）。「ビグロやグラブロに先駆けて開拓されたものの制式採用には至らず、無断出陣によりガンダムに破壊された」という設定制作は後群に上手かつ反面、モノアイとはかけ離れた児童的な雰囲、野原そのものの牙付きの大口……と、そのデザインはガンダムワールドに於いても異端中の異端、しかしそんなサクロロまでが平然と商品化されたのが、80年代初頭におけるガンプラブームの象徴とも言えたのである。

ちなみになぜMAの共通スケールである1/550だけではなく1/250との2体セットとなったのかと言うと、ザクロロの機体設定が他のMAに対して小さすぎたため、キットにはGファイターのBハーツを装着した1/550 ガンダムが付属しており、劇中シーンを再現するためのディスプレイスタンドも付属する。

なお、これらのビグロ、グラブロ、ザクロロがリニューアルキット化される可能性は極めて低いが、だからこそ80年代初頭におけるガンプラのほのいを味わってほしい。



宇宙戦艦とした、SF感  
溢れるデザインが新  
力であるビグロ。でき  
れば新作キットが見て  
みたいのだが……。

地 324円）。アームの各関節が可動し、クローラーとメガ粒子砲は間開連続式のパーツが付属。ディスプレイスタンドには、ハイロッドであるトルクワン駆のバーソナルマークが書かれているのも珍しい演出であった。

「そのビグロの機体コンセプトを元に開拓された」という設定を持つのが、水中用MAの1/550 グラブロである（1981年10月発売・価格324円）。グラブロはビグロと同様に間開連続式のパーツが付属し、アームは基部にローリル軸が設けられており、巡航形態からアームを機体前方に展開させることができる。そもそも



80年代初頭に  
おけるガンプラ  
ブームを牽引す  
るかのようなバ  
シケージデザイ  
ン。いまの若年  
には新鮮か？

ガンプラとしては  
かなり秀作の部類  
に属するザクロロ。こ  
のトゥーマッチ感  
覚などいかくも  
らしいのだ。



# NEXT MS

次号予告

ISSUE  
24

お知らせ  
諸般の事情により、ガンダム・モビルスーツ・バイブルは、しばらくの間、瑞風社での発売にさせていただきます。

次号、第24号の発売は8月20日(火)です。

## ガンダムF91

MSの小型化を推進するサナリイが開発した、  
F(フォーミュラ)シリーズの最新鋭機。  
U.C.0123におけるMSの限界性能を達成した。

お問い合わせください! 勿論白セメールでお知らせします!

お手日お知らせメール♪

<https://deagostini.jp/oshirase/gms/>

### 毎号連レポート

無人マシンの誕来

機体解説

機体解説／武装解説

■ 関連MS ラインナップ

F91と関連機体

### ■ MSパイロット

シーブックと周辺人物

### ■ MS戦記

F91 戦闘の記録

### ■ MS速化譜

F91 開発系譜図

### ■ メカニック・ジャーナル

試作機と主力量産機

### ■ フォーミュラ計画

### ■ ガンプラ ジェネレーション

第二期MSの特徴を捉えた

機体に注目!

## 第24号

8月20日(火)発売

定価: 本体 639円+税

※本機に付いて電池が付いた状態で販売します。

※マガジンの内容が変更となる場合があります。

サナリイの革新的技術を盛り込み、新たな潮流を築いた小型MS

ガンダムMSバイブル  
専用マガジンケース  
好評発売中!!

キャンペーン  
期間特別価格

699円

整理に便利な  
ステッカー付き!

(半額 50%引き)

特価期間: 2019年9月末まで

定期購読とあわせてのご注文で送料無料!

※マガジンケース1冊に半額の10冊分を收取できます。

※西郵でもご購入いただけます。※発送は変更になる可能性があります。

好評  
発売中



→18 V ガンダム



→19 ゲルグクM



→20 ユニコーンガンダム  
2号機 バンシィ



→21 ギアブラン



→22 リ・ガズィ

← 第1号～第17号も好評発売中。全国の書店でお買い求めください。

豊富なビジュアルと資料によって、毎号1機のMSを多角的に解説！

GUNDAM

# MS Bible

Mobile  
Suit

THE OFFICIAL

ガンダム・モビルスーツ・バイブル

MA-05/ビグロ



23

2019.8.20 8.27 発売号



ビグロ  
BIGRO

Total Height : 23.6m  
Weight : 125.5t  
Total Weight : 229.8t  
Material : Super Hard Alloy Steel  
Generator Output : 17,800kW  
Thrusters Total Propulsion : 136,100kg



「地球連邦軍の白いMS」を翻弄した、宇宙用高機動MA



DeAGOSTINI



ガンダム・モビルスーツ・バイブル 第23巻

定期購読のご案内

「ガングル・ヨギル・スク・バイブル」は後発連環日光秀の学がジルトーズ（一部地図を除く）541ページを100枚を予定しています。シリーズ発売が遅延にお手元に届く前に、書籍を通過での定期購読をお勧めいたします。書評の書店で、定期購読は予約機関名に用意ください。また、該該定期購読を登録される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。



#### ■本誌の最新情報をCHECK!

<https://deagostini.jp/gms/>

アズ ガンダム

檢索